

2019年度 第4回常任幹事会議事録

■今年度の同窓会ニュースの発送に関する報告

●日時

2019年12月14日(土)
15:00~17:00

●場所

阿佐ヶ谷美術専門学校 521教室

●出席者 (12名)

秋元圭一 [会長]
日野 高 [副会長]
甲斐光省 [副会長]
小山 弘 [事務長]
土橋洋一 [常任]
西田一成 [常任]
桜井裕美 [常任]
浜村圭一 [常任]
白石龍子 [常任]
小山優子 [常任]
勝山昌幸 [常任]
上村晴美 [常任]

●委任欠席者 (5名)

大村政幸 [常任]
大野美菜子 [常任] 秋元
山田直毅 [常任] 日野
藤原成理 [常任] 日野
石井育美 [常任] 小山ゆ

(幹事17/27名 定足数成立)

●議事進行:

小山 弘

●議事録

書記: 川村芽衣 [学生]、齋藤有紀
校正・制作・文責: 秋元圭一、勝山昌幸、藤原成理、大村政幸、小山 弘

秋元: 今回は書類を用意できなかったため口頭で説明し、詳細については年度末の決算の際に改めて報告する。

今年度の「同窓会ニュース」は9月下旬に発送する予定で進めていたが、幹事会開催が遅れたため進行が遅れた。勝山さんに同窓会ニュース制作を依頼し、10月2日に校正し、10月4日に入稿、10月9日着で発送業者に直接送った。宛名データ(約3,200件)は10月5日に発送業者に送付した。10月11日に封入作業を行い、当初10月14日頃には配達される予定だったが、台風19号の影響により、10月16日から2~3日程度で配達されたと考えています。
※未着のため10月末頃に約70通が戻ってきている。

経費について

デザイン料・・・・・・20,000円(勝山さん)
印刷代・・・・・・26,581円(3,500部、ネット印刷 ※配送費含む)
封入・発送代・・・・・・250,000円(発送数3,200件強)
進行作業料・・・・・・5,000円(秋元)

合計: 304,285円。

※予算を310,000円で計上しているので、予算内で全て完了。

秋元: 毎年「あさび新聞」を同封して発送している。現状ではあさび新聞と同窓会ニュースの発送時期がズれているため、学校から同時進行ができないか要望があり、来年度の制作時期・発送については検討している。

印刷は両面モノクロ印刷にしている。ネット印刷では両面四色刷りでも費用が変わらないため、来年度の内容によってはカラー印刷にしても良いと考えている。

西田: カラーで刷った場合の重さによって送料が上がってしまわないか心配。

秋元: モノクロからカラーにしても紙の重さは変わらないので問題ない。

日野: 学校の「あさび新聞」発送のスケジュールに合わせられるのか。

秋元: 来年度の学校スケジュールは把握している。進行を合わせられなかった場合にかかる経費については同窓会の負担で行うと伝えてある。

小山: 来年度の印刷はカラー化する可能性があるということか。

秋元: 内容的にカラー化したほうがよい情報かどうかによる。

勝山: 写真だけでもカラーにしたほうが大分印象が良いと思う。

日野：写真が綺麗というのも大切だが、選挙についての注意書きなどの重要項目に「赤」を入れて目立たせることにも効果があると考えられる。

※他に質問などがなかったため、この議題は終了した。

■議題1 企画の決定に向けた企画会議【資料A】参照

「まんが計画⑦」について

小山：「まんが計画⑦」ということで計画書を提出。

前は11月上旬に開催し、無事終了。参加人数が29名を下回った場合は「まんが計画」を終了するということがあったが今回の参加人数が30名だったため、このまま継続することになった。これまでに6回やってみて、定着してきているようだ。

次回は2020年10月か11月の月上旬に開催期間を5日間で予定。今年度スケジュールが遅れたため、次回は2月から募集チラシを作成し、早めに進めたい。開催会場と基本メンバー6名は従来と同じ。（まんが計画企画書 参照）

次回の変更点については、参加費を従来2,500円から700円安い1,800円にしたいと考えている。運営費の試算については「まんが計画企画書裏面」に記載。

※資料（まんが計画⑤、まんが計画⑥）を回覧した。

「まんが計画⑤」が従来の印刷製本方法で、「まんが計画⑥」は今年度行ってみた新しい方法で作った冊子です。

日野：何が異なるのか。

小山：従来は上質紙に全部モノクロでないと印刷ができなかったが、今回の方法では表紙、裏表紙をカラー印刷にできた（中面もカラーにすると費用は高くなる）。また、断ち切りでの印刷が可能になったため、中面の余白をなくすことができた。印刷方式を変えたところ、表紙をカラーにしても逆に1万円ほど安くなった。オープニングパーティーも簡素化して1万円程安く行い、総額で2万円分の運営費を抑え、その分を参加費の減額分に当てたいと考えている。

次回は第7回なので、700円安くして1,800円で計画したい。負担が減った分、参加者が増えるのかわからないが、学生も参加してくれているので、少しでも安くして参加しやすい状況をつくりたい。

予算は19万円としてあります。今年度アサビフェスタの展示を想定して4万円増額していたが、時間の都合で開催できなかった。来年度は継続してそのままの予算を計上しています。基本的に「まんが計画」の展示については15万円の予算で行い、実際には12～13万円ほどに抑えられると思います。常任幹事会で承認していただければ、作品テーマを決めてチラシの制作を行いたいと考えています。

西田：前回の会議で「まんが計画」を継続するかどうか結論が出たのか。また、会計上は赤字にはならなかったのか。

小山：以前から継続していきたいという方向性は伝えてきました。費用的に今年度

は従来より安く運営できて、細部を調整すればさらに費用を下げることも可能。

西田：「まんが計画」を担当しているメンバーは、「継続したほうが良い」という結論を出しているのか。

小山：はいそうです。しかし、従来そのまま行うのではなくリニューアル感を出し、新しいメンバーを増やしていきたいと考えている。

西田：同窓会は全体として節約しているので、運営費が1~2万円安くなった分、私は参加費を下げるのではなくて、同窓会の持ち出し経費を下げた方が良いと思う。2,500円の参加費でも参加する人がいるのだから下げる必要はない。展示の初日を観に行き、もう少し参加者が多くても良いのではないかと感じた。展示会の土台をしっかりとさせて、運営の仕方も検討していただきたい。

小山：当然、これまでも運営費用は抑えてきているし、同窓会の経費を下げることも検討した。その上で、次に活動をつなぐためには300円でも700円でも安くすることが大切だという判断をした。これまでに決算を出してみても、同窓会の持ち出し分は上がっていない。その中で運営費の中で下げられた部分を「参加したい」というやる気のある出展者に還元したいと考えて、今回の企画を出している。

土橋：募集開始を早くした分、制作する余裕ができるから1人で複数出品できるという効果が期待できないか。

小山：その可能性はある。冊子のページ数は自由に増やせるので、1人で複数ページということは検討できるかもしれない。

土橋：1点だけでなく複数出せればもっと賑やかになるんじゃないかと思う。また、西田さんの意見に同感で、参加費は下げなくても良いのではないか。

小山：私は下げないと（参加者を増やしていくことが）かなり厳しいと思う。

土橋：今の時代で700円下げた場合の効果はどの程度あるか疑問がある。

小山：700円の効果はかなりあると考えている。年齢が若い人ほど1円でも安くという人が多い。

土橋：参加費はある程度はしっかり参加者に負担してもらうべきと考えている。また、冊子の販路について新しく良いアイデアが出てくると面白くなると思う。例えば、小さい冊子ということを活かして電車の中で売ってみるとか。

小山：結論から言えば、そういった新しいことをするには人手が必要になってくる。担当している人間は自分たちの仕事も持っているので、それほど労力（時間）をかけられない。この冊子で商売するつもりなら可能かもしれない。

土橋：参加費を安くしないで、人手が必要な部分を余裕ができた費用でアルバイトを増やすなど、雰囲気盛り上げることに使うということも考えられると良い。

小山：その判断については難しいところがある。

日野：前回は何人の学生が参加したのか。

小山：学生の参加は3名だと思う。

日野：私はこの冊子を売ることも、参加人数を増やすことや学生にもっと参加してもらうことに力を入れる方が良いと思う。「学生のために値下げする」というなら、卒業生は2,000円、学生は1,000円とか、そのくらい極端にやって良いし、Twitterで学生に訴えたり、先生にチラシを配ってもらうなど、学生にもっと参加を求めるために「際立った学割」として行うべき。通常より1,000円も安くなっていると学生にもわかりやすくやらないと、一律700円ではあまり響かないと思う。これから続けていくためには学生の参加を増やすっていうのは大命題で、学生にはまだ広まってなくて、参加・不参加の前に「知らない」という方が多いと思う。学生の参加の方が多い、くらいにする勢いで進めていくべき。2,500円の参加費は世の中の的に妥当な金額だと思う。卒業生2,000円、学生1,000円にして、参加者が2割増えれば良い、ぐらいつもりで頑張れると良いと思う。

西田：「まんが計画」が公募展的な性格か、同人会的な性格なのかによって大きく違ってくと思う。毎年開催していて、同人会的だったら参加している人たちがもっと仲良く見えるだろうけど、実際はみんなバラバラで公募展的な感じだった。同人会的に行うなら一律に会費をとれば良いと思う。公募展的な差をつけて会員からは3,000円でも4,000円でもとって、初めての人だったら2,000～1,000円で参加してもらうということにすれば良い。その場合は、ある程度のレベルチェックをするべきで、チャンスをあげるという意味では良いと思うけれど。

日野：そういった価値を目指すものではないと思う。

西田：同人会的ならしっかり運営できて、結束力もつくと思うんですが、担当してる人たちが素人感が残ってしょうがないと毎年思ってしまう。

日野：そうは思わない。

西田：一生懸命やっているのはわかるが、現状の内容には疑問がある。

甲斐：基本的には最初に小山さんが言ったように、最初に「まんが計画」を作った理念を自分たちで守ってきている。グループ的に同学年が集まってわいわいするということもあります。そこに外部のモデルさんや知り合いの人たちも入ってきて、確実につながりは強くなっている。初期の「まんが計画」のコンセプトは非常に大まかで、漫画好きな人なら、漫画らしくなくても良いという設定でやっていた。それがだんだん真面目になってきたというのがあって、イメージを変えようと考えていると思う。元は卒業生がターゲットだったので、参加費が2,500円だったが、先程日野さんの言っていたように、卒業生と学生とで差をつけてやる方向が良いと思う。申し込み時に、学生に参加費2,500円と言うと少し引いている感じがある。

日野：当初は冊子が3冊配布されたが、（今は1冊なので）値上がり感がある。

小山：学生は「値段」っていうところには非常にシビア。

日野：世の中はもっとセンシティブだと思う。

勝山：私は小山さんと同世代だが、（私にとっても）2,500円は厳しい金額だ。

秋元：西田さんの話だと、もっと企画を固めたりコンセプトをはっきりとして周りを絡めていくという話だったが、甲斐さんの言っていたように、この企画の最初のテーマは同窓生が交流できる場をつくりたい、同窓会を続けてきて、年輩の卒業生と若い卒業生の交流が無いと、その差を埋めるための橋渡しの企画として始めてみた。そのため、私はコンセプトはぼんやりでも良いと思う。継続しているうちに学生や、卒業して間もない人たちと同窓会の接点が少しでも繋がれば良い。

「まんが計画」で同窓会の経費を抑えることは必要だけれど、このことで収入が入って同窓会が潤うというような考え方はしていない。

また、担当している人たちの状況も考えて欲しい。先程、意見が出ていたように、可能ならば卒業生と学生の参加費に差をつけて、学生が少しでも参加しやすくすることは良いアイデアだと思う。少しでも現役学生にPRできて学生の参加者が増えることが同窓会のためになると考えている。

西田：「まんが計画」を否定しているわけではないが、趣旨を理解してもらわないなら、主催者側だけが忙しくて参加者は何もしていない状況になってしまう。

日野：それは参加費が変わっても同じではないか。

勝山：今回は企画が4つあるので、1つに時間をかけすぎないようにした方が良い。予算を検討する企画会議なので、内容や趣旨については、今後話し合えば良い。

「まんが計画」に関してはこれまで継続してきた企画なので、この内容で予算を承認するかどうかというところに絞って話し合うべき。

小山：様々なご意見をいただき、ありがとうございました。参加費については安くする方向で、卒業生と学生などの値引きの比率を見直すことなど、今後検討する。

※出席者の賛成多数で「まんが計画」は来年度も続行ということで、承認を得た。

小山：「まんが計画」の進捗状況については、随時報告する。

「陶芸体験」について【資料B】参照

桜井：以前から陶芸に興味がある方がいたので、親睦をはかるという趣旨で1回目はあまり深く考えずにできる人たちが、できる時間に集まってという感じで試しに実施してみたい。

学校を会場として借りるため、担当者の臼木さんや山田先生と打ち合わせをした。木工房の借りられる日にちをリストして、その中から選んで実施する。

日野：春休みに実施するということか。

桜井：最終的な目的として、常任幹事の選挙の投票を促すというところに繋がれば良いと考えているが、最初は「幹事の輪を広げる」ということで開催したい。

(陶芸体験企画書 参照)

桜井：親睦なので、陶芸に興味がある方で参加できる方は、なるべく多く参加してほしい。最初は場所代を含めて、1,000円程度の参加費を予定している。個人的につくりたいものが違うと思うので、ある程度メンバーが決まったら参加者の意見を聞きながら費用などを決定していく。体験会の終了後に連絡先を交換し、参加希望者に連絡するという形をとっていく。

上村：小学生くらいの子どもの参加は可能か。

勝山：付き添いの大人が居れば良いと思う。

日野：子どもだけの参加はむずかしい。

上村：親と一緒にでの参加を考えています。

日野：最初の実施日はいつにするのか。

桜井：3月7日と14日が候補日なので、参加したい方で相談して決定する。

勝山：都合が合えば参加したいが、まだ予定がわからない場合にはどうするか。

桜井：都合がわかってから私に連絡していただければよい。

秋元：この企画は2020年の実施予定か。

桜井：2020年の3月。

秋元：この企画は来年度の予算には関係ないということか。

桜井：来年度の同窓会費は申請せず、全て参加者の負担で実施したい。

日野：企画書にある「幹事」は「常任幹事」のことか。

桜井：最初は常任幹事を対象とします。

日野：最初から大きく輪を広げるような、告知はしないということか。

桜井：最初からあまり広げず、1回目は幹事同士の親睦ということで始めたい。

白石：卒業生の中での友人は誘ってよいか。

桜井：窯で焼ける量とか釉薬などを把握できてないため、まずは常任幹事だけで1回開催してみて、またやりたいという人の声が多かったら幅広くお誘いして、本来の目的に近づけるようにしたいと考えている。

桜井：3月7日と14日参加したい方は、まず私に連絡をしてもらい、調整したい。

勝山：可能なら連絡や調整にSlackを使ってほしい。

桜井：せっかく作っていただいたので、Slackを活用したい。

日野：スケジュールが未定な人も出来るだけ参加できるように決めたほうが良い。

桜井：参加できると決まったら、改めて連絡していただければ良い。材料準備の都合もあるので、参加の可能性のある方はなるべく年内に連絡がほしい。

西田：いざ広げようとなった際、同窓会企画として予算を1万円でもつけておき、来年度から正式に同窓会の企画としてスタートした方が良いと思う。常任幹事以外の方が参加したいとなった場合に、正式な同窓会の活動にしておいたほうが良い。

日野：現状で予算をつけたらあまりにも大雑把になってしまうので、良くない。

桜井：1回目を終えた時点で経過を報告し、同窓会の活動として成立するようなら予算化できるよう、常任幹事会に図りたい。

秋元：まずはやってみて参加者が増えそうだなれば、来年度の予算に入っていないくても、常任幹事会で了解を得て予算を出すこともできるので、最初から決めるのではなく流動的に考えれば良い。

※3月に幹事のみで「陶芸体験」プレを行うことが、全員一致で承認された。

桜井：〈補足〉主に参加するメンバーの都合から、3月7日の開催を決定した。

「ハンドメイドマーケット」について【資料C】参照

上村：「ハンドメイドマーケット」は以前から考えていた企画。実施は来年度に限らずその先でも良いと考えている。まず、みなさんに知って頂きたい。資料の催しは実際にアサビの近所のお寺でやってるマルシェです。（チラシ参照）始まったのは4～5年くらい前だが、私は第1回からお客さんとして行っている。前々回からは私もハンドメイド（手芸品）を出店している。このマルシェを参考に企画を考えた。

マルシェに参加してみて、改めて「流行っている」というのを実感した。買う人も出店する人もとても盛り上がっていて、世間的にウケていることを第一に感じた。アサビの同級生がつくっていたものを思い出し、その作品を集まって販売できたら同窓会のようにもあり、作った人の売上にもなる。ちなみにこのマルシェは参加費800円で、私と友人で作った単価500円くらいのアクセサリーを販売し、平日にもかかわらず、1万円くらいの売り上げになった。

秋元：これは地域の催しで、参加者も近所の人が多いのですか。

上村：地域の催しで出店は近隣の参加者が多い。このマルシェは19回続いている、来場者はリピーターもいて（杉並区内が多いですが）かなり遠くからも来ている。次回の開催は4月。

私が心配なのは参加者が集まらないことです。例えば桜井さんの陶芸で1ブースという風にみなさんの同級生のネットワークで出店希望者が20~30くらい集まればその分お客さんも来ると思います。または近隣の人や現役の学生に来てもらう。

日野：学生に「参加したら」と誘ったらたくさん参加すると思う。

上村：アサビフェスタで手づくりのものを売っている学生が多いと感じた。

日野：卒展での販売もある。

上村：今回の企画で出店者は卒業生に限定。（ハンドメイドマーケット 企画書参照）参加者が足りなければ、現役学生を入れようとは思いますが、学生を対象にすると出店者が多くなりすぎてしまうことも考えられる。

日野：現役学生ブースっていうのを1~2個作って、そこに集中して3~4人で出品する方法もあると思う。あんまり多くなりすぎない程度にはあっても良い。

秋元：「まんが計画」をアサビフェスタで開催する計画があった。例えばフェスタの一角にスペースを借りて、そこに商品を持ち寄るということも考えられる。

日野：そういう特定ブースを作るのも良いと思う。桜井さんの陶芸体験の作品販売ブースがあっても良いし、考えればたくさんあると思う。

秋元：アサビフェスタで「まんが計画」の冊子売るためのスペースを検討した時にフェスタを企画している学生とコミュニケーションがうまく取れなくて、誰に話をして良いのかもわからないまま、結局実現できなかった。学校に先に声をかけておいてなんとかできるのであれば、是非参加したい。

日野：学校でもやっているシルクスクリーンの教室のような体験をやってみたり、考えられることはたくさんある。体験コーナーをやることは学校にとっても良い。

秋元：同窓会の活動に呼びかけになるかもしれない。

日野：私の友人に地方でガラスをやってる人がいて、来られない作家から送ってもらって代わりに販売するというのも考えられる。

秋元：商品の数が少なくても、合同の販売ブースなら参加できる。

上村：出店者同士も時間の中で交流ができるので開催会場でしか会わなくても、回を重ねるうちに親しくなり「お久しぶり」と言って、情報交換ができたりする。

日野：以前、同窓会で作ったTシャツを売るのも良いし、いくらだってやりようはあると思う。

上村：食べ物も販売してはとも思うが衛生面などハードルがあるので、どうクリアするのか考えなければならない。

日野：食品の販売は100倍くらいハードルが高い。

上村：マルシェ主催の方にも色々聞いて、参考にしたいと思っている。焼菓子など販売しやすい方法がないか検討する。

秋元：生ものでなければ、可能ではないか。

日野：食品の販売に詳しい人に監修してもらおうべき。

上村：卒業生で詳しい方がいるので、相談してなんとかできないかと思っている。食べ物、切れ物がすごく売れる。来場する近所の人のお楽しみにもなる。

日野：食品販売に関してはプロを呼ぶということもあり得る。

上村：近所でやってくださる方に声をかけてみることも検討したい。

小山：具体的なスケジュールはどうか。

上村：まだ具体的には考えていない。他の企画に重ならないように進めた方が良いと考えている。企画に適したシーズンは春か秋だと思う。

小山：先程の桜井さんの陶芸体験企画のように、2020年テスト的に実施するの
か、もう少し話し合いを進めて2021年の春あたりについていう方が良いのか。

日野：学校でやるのなら春休みか夏休みが日程的に確保しやすいのではないか。

上村：春休みが良いかもしれない。

小山：2021年の春、2年後に開催するとして来年度は準備期間とするのか。

上村：来年度は準備して、2021年の春に開催するのが良いかと思う。

秋元：アサビフェスタにプレ開催として、出店するのも良いのではないか。

日野：数を限定してやってみると良い。

上村：まずは、アサビフェスタでやってみて、その中で来春の出店者を募っている告知をできれば良いと思う。

秋元：同窓会の活動についての告知もできると良い。

日野：ビラを撒くだけでなく、実際イベントがあって告知できるのは良いと思う。

小山：予算については打ち合わせ費とかは必要になるか。

白石：ポスターなどの費用も考えておいた方が良い。

日野：この企画は事前に予算をつけた方が良いと思う。

小山：常任幹事会の中で検討した方が良いか。

上村：常任幹事会で進めていきたい。

小山：常任幹事の有志での準備会になるとして、打ち合わせなどをどこでやるかによっても予算が違ってくる。外の会議室を使うとしたら2時間で4,000～5,000円くらいが目安になる。

上村：セッション並の集会場とかであれば、1時間数百円でできる。

日野：とりあえず、2～3万円でも正式な予算としてつけておく方が良い。

小山：ハンドメイドマーケットの開催日は2021年の春として、2020年のフェスタでプレ的に出店を行う予定。予算は3万円で計上するというにすることにする。担当スタッフは基本的に常任幹事で行い、常任幹事以外の方も良いことにします。実際やっていただける方をお願いするということで、承認をとりたい。

※出席者の賛成多数で「ハンドメイドマーケット」の企画は承認を得た。

■議題2 その他

アサビ同窓会Webサイトのリニューアル【資料D】参照

(SNSを含めた今後の管理体制について)

勝山：現状の課題としてWebのサイトの更新が止まっていて、情報の発信ができていないという状態になっている。また、Facebookの更新も止まっている。そして、2年くらい前からアサビ同窓会でもっとWebで情報を発信した方が良いのではないかという話が出ている。本日出された企画の「ハンドメイドマーケット」や「陶芸体験」はタイムリーに発信をしていった方が効果があり、絶対に良いはず。Webの情報発信が止まっている現状であるため、企画を提案することにした。

(アサビ同窓会WebサイトのリニューアルとSNSを含めた今後の管理体制について 企画書 参照)

このWebの件をできるだけ早く改善した方が良いと思っている。Slackを見た人はもうご存知かもしれないが、プロトタイプは既にできている。ホームページはそんなに複雑でなくて良いので、イベントがあった際にグラフィックとテキストが入る、いわゆる「ブログで告知する」というのに加え「掲示板」をつけている。この仕様ならこのくらいの費用で作れるというのを試算してみた。これで承認が得られたら、早急に進めた方が良く考えている。

白石：今回、担当者がお休みしているから更新できないという話が出ていて、交代でも常に管理・更新していくには複数の担当者が必要になると思うが、どう考えているか。

勝山：新しいWebサイトができたとしても、1人で更新し続けるのは負担が重い。例えば、アサビフェスタに行ったという記事を出すにしても、必ずその人が行かなければならないとなると、かなり難しくなる。そのため常任幹事の中で数人の担当者を決めて（もしくは全員が参加できると良い）、それぞれが記事を書けるような形にしたい。その仕組みの作り方は今後の検討だが、まずはベースとなるWebサイトを作ったらどうかと考えている。企画書の一番下に、担当について考える必要があると書いた。私はここが一番重要なところなのではないかと考えている。記事を上げることが難しい方には写真とテキストを送ってもらい、更新できる人が代わりに行うことにしたい。技術的な課題もあるが、複数で更新できる体制にしておいた方が、今回のように止まってしまうことが避けられると考えている。

秋元：この提案は同窓会のWebサイトをリニューアルするということか。

勝山：企画は新しくホームページを作り直すということ。リニューアルしなくても良いという意見もあると思うので、その場合には今のサイトを使うことを考える。

秋元：Facebookのアサビ同窓会ページも更新していないのか。

勝山：昨年2月くらいから止まっている。

秋元：新しい催事とかも載っていないのか。

白石：TwitterとかはアサビのTwitterとリンクしているので、アサビのTwitterの部分は載っているんですけど、同窓会のは更新してない。

勝山：「まんが計画」を開催しても情報発信していないので、もったいない。

日野：私はそこが重要だと思う。現状の課題としては「更新が止まっている」と「リニューアルする」というのは必ずしもイコールではない。そのことを認識した方が良いと思う。

勝山：全く同意。

秋元：（現ホームページを作った）小高さんは学校に在籍されてるか確認したい。

甲斐：非常勤講師として在籍している。

秋元：常にコンタクトが取れるか。

甲斐：コンタクトは取れるが、学校に来るのは授業の時のみ。

白石：先日お会いした際に、Webに関してご協力いただけるか訪ねたら「いいですよ」って言ってくれたので、ご連絡すれば協力してくれるはず。

勝山：現状サイトの担当者とのコンセンサスも取れていない。本来は企画会議の前に話をするべきだが、企画書提出の締め切りがあったため、提出を優先した。新しいWebサイトが必要となって、新たに作るのであれば（有料プラグインの購入などを想定して、余裕をみて）8万円くらい、会議費としては4万円を上限に考えている。

新規に作ることになった場合に、予算化してあれば来年度すぐ着手できる。作る必要がないということであれば予算を使わずに残しておくことも考えている。

日野：課題としては更新＋リニューアルの両方ある。

勝山：2つの課題を解決しなければならない。

秋元：次回の「まんが計画」も、前の状態のままになっている告知できない。

日野：「まんが計画」が2月に募集をかけるので、そのくらい迄には更新したい。

勝山：情報をタイムリーに発信できるようにすることが目的。

小山：予算をどうするか。

秋元：新規に作成することに関してはペンディングして、現状のサイトを利用していくことを前提に進めてほしい。会議費に関しては予算立てして良いと思う。

日野：更新の担当者は今後考えていく必要があるが、主担当は決めておくべき。

秋元：担当は勝山さんをお願いしたい。

白石：皆それぞれ仕事があるので、私がやりますというのは重荷になる。

日野：更新作業を有料にすることもあり得るから、その場合には費用を決めるべき。

土橋：作業費についてはしっかり決めた方が良い。

日野：そこは担当する勝山さんをお願いしたい。

小山「担当の松岡さんが同窓会を退会したいとの要望を間接的に聞いています」

日野「松岡さんに担当者の変更を伝えなければならない」

甲斐「私から松岡さんに伝えます」

後日、松岡氏にホームページの担当者と管理方法の変更を伝えることになった。

秋元：仕事の流れがきちんとわかって、誰がどの担当をしたっていうのがわかれば、その中で必要な費用に関してはきちんとみなさんに報告ができる。更新の仕組みを具体化して、早急に更新方法を整える方向で進めてほしい。

小山：会議費として4万円の予算をつけ、現状のサイトを更新していくという形で進めることにする。

小山：私はWebはみんなで管理するという形で、複数の担当者によって上手く持ち回れば良いと思う。そういう形を整えるためには、現状のサイトをどこかのタイミングで廃棄して、再構築しなおすが必要になると考えている。

日野：更新作業はできないが、記事を書けるという人はいる。文章を送って更新を別の人が行うので良いと思う。それぞれ分担できれば良いと思う。

勝山：記事を書くことのハードルはすごく高いと思う。

小山：更新を1人で行うのは大変。多少見栄えが悪くてもみんなが関わり、更新を続けられるようにしていくことが大切。

来年度の予算組み立ての会議

秋元：来年度の予算組み立ての会議ということで、「同窓会ニュース」に関しては今年度と同予算で計上する。山田さんの方からはお話がないが、「卒展の予算」に関しても同予算で良いか。

山田：今年度と同様で良い。

秋元：それでは引き続き「卒展の予算」は同額で計上する。
「アサビブリッジ」は企画が出されていないので、来年度も予算無しとしたい。

日野：仕方ないと思う。

小山：「アサビブリッジ」は項目を外しても良いと思う。

日野：やりたければまた企画を出せば良いと思う。

秋元：「アサビブリッジ」を予算案の項目から外すことにする。

次回の開催予定：2020年2月8日(土) 15:00～17:00 「常任幹事会」

2019年12月14日（土）

まんが計画⑦ 企画書

代表責任者	甲斐光省 小山 弘
イベントタイトル	まんが計画⑦
目的	会員の親睦とまんが冊子の制作、販売
開催日	2020年10月か11月上旬予定 日程は5日間程度
スケジュール	2020年 02月 募集チラシ入稿 03月 メンバー募集開始 07月末 メンバー〆切 09月 DM制作 09月中旬 原稿〆切 10月上旬 入稿 10月 冊子納品・発送 10月 開催
場所	人形町ビジョンズ 〒103-0012東京都中央区日本橋堀留町2-2-9ASビル1F 03-3808-1873
メンバー	甲斐光省・白石龍子・勝山昌幸・石井育美・小山ゆうこ・小山弘
費用	※参加費 2500円→ 1800円（安く！） ※予算につきましては、前回は参加を見合わせたアサビフェスタの参加分を加えまして前回と同額を計上しております。 ※詳細につきましては裏面をご覧ください。

まんが計画⑦ 企画書

今回の特徴

冊子印刷代が前回より1万円程度安くすむサービスが始まりました。
 それに加えオープニングパーティーも簡素な内容に戻しながら全体の費用を抑えつつ、
 第⑦回にかけながら700円「安く！」して、

参加費 2500円→**1800円 (安く!)**

参加費を「安く！」して多くの方が参加しやすいように募集したいと考えます。

【支出】

展示部門

ヴィジョンズ会場費	10,000
連絡費	20,000
会議費	4,000
DMデザイン代	5,000
DM印刷費(東京カラー印刷)1000枚	5,000
A1歩ポスター印刷代(東京カラー印刷)3枚	3,000
作業人件費	20,000
オープニングパーティー経費	15,000
展示小道具	5,000
雑費	4,000
小計 ①	91,000

冊子部門

募集要項印刷代(東京カラー印刷)100枚	4,000
冊子印刷代(東京カラー印刷200部_P148_B6_モノ_70kg)	61,000
冊子販売アルバイト代(1日7000円×5名)	35,000
編集処理費	20,000
画像処理費	20,000
小計 ②	140,000

【収入(見込)】

会費(1800円×35名)	63,000
冊子売上げ(300円×60冊)	18,000
小計 ③	81,000

合計 (A+B)-C **150,000**

【アサビフェスタ:予定】

A1歩ポスター印刷代3枚	3,000
展示パネル印刷代	13,000
冊子販売アルバイト代(2日7000円)	14,000

合計 **40,000**

予算(通常展示+フェスタ参加として) **190,000**

※決算は来年3月31日までに提出致します。

2019年10月12日(土)

同窓会 企画書

代表責任者	桜井 裕美 山田 直毅
イベントタイトル	陶芸体験
目的	幹事の親睦を図る(最終的には幹事の輪を広げる)
開催日	3月6.⑦9.10.11.12.13.⑭.23.24.25.26.27内1日 13時～16時
スケジュール	打合せ 12/14 常任幹事会 その後参加者打合せ
場所	阿佐美 木工工房
メンバー	白石龍子・甲斐光省・小山弘・小山ゆうこ・藤原成理
費用	1人1,000円程度(材料費、工房使用料込み) 学校陶芸担当者と交渉中
その他	<p>制作物 皿、湯呑、茶碗、箸置き等、その他 何を作るか、色、形、大きさについては 参加者打ち合わせで決めていきたいと思いを。</p> <p>制作の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原型作り、釉薬選定(陶芸体験日) 2) 素焼き <input type="checkbox"/> 施釉 <input type="checkbox"/> 本焼き (後日 代表者、担当者、有志で決定) 3) 受け取り(常任幹事会開催日) <p>皆様の参加をお待ちしております。</p>

2019年12月14日(土)

同窓会 企画書 (記入例)

代表責任者	上村晴美(会員番号：)
イベントタイトル	ハンドメイドマーケット
目的	同窓生同士、または近隣住民との親睦・交流
開催日	202?年 月 日(日) 10:00~16:00
スケジュール	
場所	阿佐ヶ谷美術専門学校 中庭 集客が見込めなそうであれば、どこか別のイベントスペースなど検討
メンバー	出店者 アサビ同窓生 来場者 アサビ現役生、同窓生、近隣住民(ポスターなどで告知)
費用	収入：出店料 500~1000円/1ブース 支出：場所使用料 ポスター等チラシ制作料 飲食ブースはテントが必要?
その他	

アサビ同窓会WebサイトのリニューアルとSNSを含めた今後の管理体制について

現状の課題

- ・ Webサイト（Facebookを含め）の更新が止まっている
- ・ ネットを使った情報発信を活性化したいという意見がある。

プラン

- ・ 現状のサイトをリニューアル（Webサイトの質よりも、情報の発信を重視する）
→ 2020年度 できるだけ早く
- ・ 記事の更新・SNSの発信など、具体的な更新作業はチームを作って行う。

予算

- ・ Webサイトリニューアル費用 8万円（WordPress+テンプレート使用）
- ・ 会議費 6千円×6回程度 4万円

以上合計 2020年度予算 12万円

備考

- ・ 10月の台風などの影響などもあり、上記の内容で十分なコンセンサスが取れていない。
 - ・ 現状のサイト+SNSを活用し、準備をしたうえで再来年度以降にリニューアルするという考え方もある。
 - ・ それらを含めても、「リニューアルが必要」となった場合に実際の展開が遅くなるため、
 - ① 経費として会議費4万円（以内）
 - ② リニューアルを行う場合の予算8万円（行わない場合は次年度繰り越し）という、2段階の考え方でご承認をお願いしたいと考えています。
- あわせて、担当者についても今後考えていく必要があります。

参考資料

- ・ 以前制作した試作版サイトのURL
<http://extech.xsrv.jp/asabitest/>
ユーザー名：asabi パスワード：doso